

日本のジェノグラム

早樫 一男

4

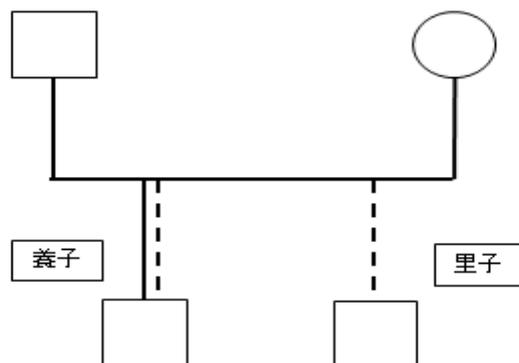
今回は…

「ジェノグラム（家系図）の臨床」（石川元監訳 ミネルヴァ書房）：【原本は「GENOGRAMS assessment and intervention」（2nd edition）】を参考に、養子や里子の記載について紹介いたします。

なお、ここで言う「養子」というのは、婚姻による女性方への入籍（妻の姓を名乗る）ではありません。（多くの場合は）未成年の時期に養親と親子関係の縁組をすることです。

里子（里親）とのつながりを示す線は、夫婦を結ぶ横線から点線（破線）とするというのが基本です。さらに、養子（縁組）は実線と点線（破線）を並行して描きます。

養子・里子の記載



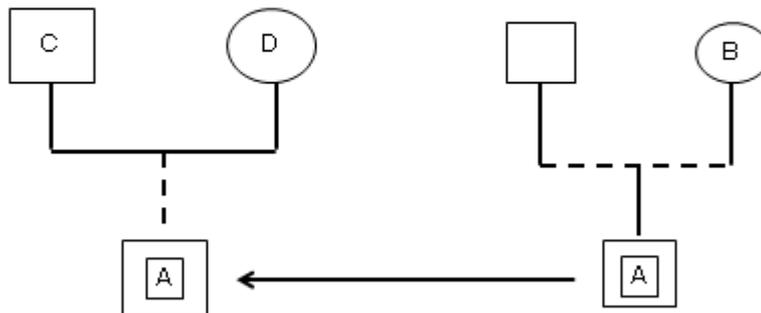
里子(里親)の記載例

以下のジェノグラムは、未婚女性（B）と内縁関係の男性との間に生まれた男児（A）を養育里親（C D）が里子として育てている場合の記載例です。

この場合の留意点は、ジェノグラム上に、実親も記載している点です。出生家族の存在や出生家族との関係を矢印で示しています。

また、養子前提であっても、ジェノグラム作成時点で戸籍に入っていないければ、「養子」として記載（注意書きとして、補足説明）すればよいと思います。

里子の記載例



養子(養親)の記載例

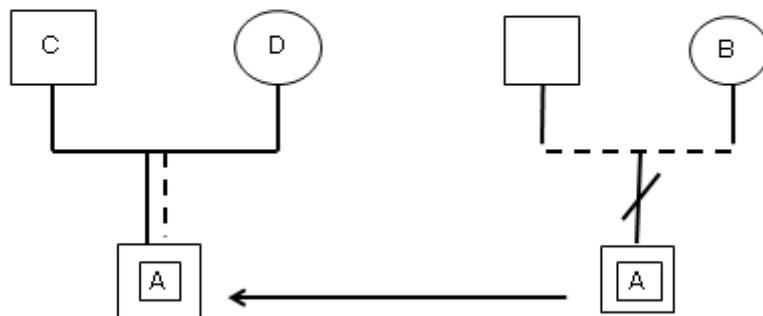
子どもを養子に出すという場合、まったく縁もゆかりもない人に託す場合と親戚といった間柄の中で、養子に出すという場合があります。いずれにせよ、実親や養親になんらか

の訳がある場合が多いのではないかと思います。

親戚の間では、例えば、長男夫婦に子どもがなく、弟や妹夫婦の子どもの一人を長男夫婦の養子にするといったような場合です。「家や財産の伝承」など、さまざまな背景が存在しています。時期的には、子どもの年齢は幼少期の頃もあれば、児童期以降のこともあります。親戚関係の場合は、生物学的には実親が戸籍上は「おじ」「おば」であったり、「おじ」「おば」が戸籍上は親であったりと、複雑な人間関係が生じる可能性があります。

次の記載例は、未婚女性（B）と内縁関係の男性との間に生まれた男児（A）を夫婦（C D）の養子として縁組した場合です。養親と子どもを結ぶ縦線は実線と点線（破線）を並行して使っています。

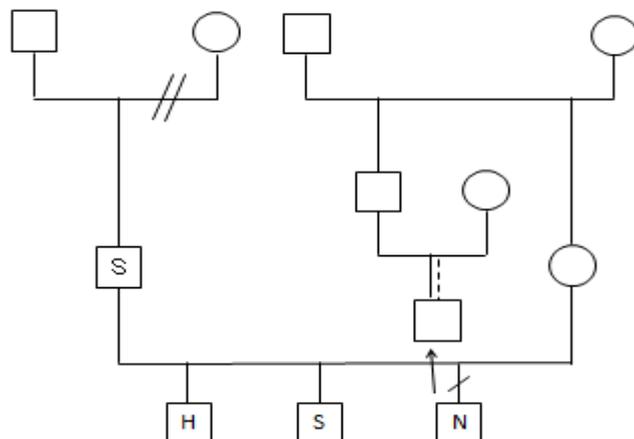
養子縁組の記載例



ここでも、記載上の留意点としては、実親も記載していることです。矢印で出生家族の存在や関係を表しています。さらに、この場合は、実親から下した縦線に斜め線を一本加えることが考えられます。戸籍上のつながりは切れたという意味です。また、実親との交流状況（交流の有無など）は「注意書き」として記載することができるでしょう。

ある家族：名前の伝承、家の伝承、さらに…

A家の場合



S夫婦（A家）には3人の男児が生まれました。長男のNの名前には、Sの父親の一字とSの妻の父親の一字が使われています。次男には、Sの一字と漢数字が使われています。三男はSの父親の一字が使われていますが、幼い頃に、Sの妻の兄夫婦に養子となりました。

Sの妻の父親、兄、そして、三男には共通する一字が使われています。名前が伝承されているのがわかります。ちなみに、名前の伝承については、前々回で話題にしたところです。

以下は、S夫婦のさらに上世代の断片情報です。Sの妻の父親（Sの子ども達から見れば母方の祖父）は、中学生の頃、Sの妻にとっては父方祖父にあたる家の養子になっています。一方、Sの父親は離婚後、Sを引き取っています。また、Sの結婚前には亡くなっているとのこと。

さて、ここからは、限られた家族情報やジェノグラムをベースに思いを巡らせる作業です。

ジェノグラムから考える作業として、それぞれの家族（例 S夫婦の家族、SやSの妻の出身家族など）について思いを巡らせてみることもできますし、それぞれのメンバー（例 S、Sの妻、長男、次男、三男）に思いを巡らせることもできるでしょう。

あなたなら、どこに（どの点に）関心を抱き、思いを巡らせますか？ 自由に考えてみませんか？また、どのような追加情報があれば、さらに、思いを巡らせることができますか？

ジェノグラムを眺めながら、さまざまな観点から考えてみてください。（つづく）